

NO.112 平成 20年 7月1日 発行

発行元: (財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

シナノキ

Tilia japonica Simonkai

シナノキ科 シナノキ属

シナノキ属は北半球の温帯に約30種分布していますが、一般に「シナノキ」と言われるものは北海道から九州までの山地でよく見かける樹高15~20mになる落葉高木です。7月下旬から8月上旬にかけて咲く淡黄色の花は、ハチミツのもとになる植物の代表で、この花からとった蜜は香り高く良質であるため、かつては全国の養蜂家たちが7月半ばになると北海道のシナノキに大移動してきたと言われています。

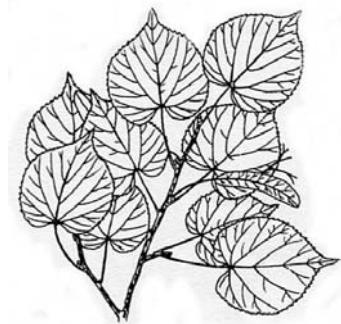
同属に中国原産で日本にも古くから渡来し、寺院や公園樹として植えられているボダイジュ(菩提樹) (*T. miqueliana*) が知られていますが、シナノキとは異にしています。また、インド原産のクワ科イチジク属の一種、インドボダイジュ (*Ficus religiosa*) は名前の上で混同されることがあります、ボダイジュやシナノキとは全く異なる種類です。

シナノキの名前の由来は、『日本植物図鑑』では皮がシナシナすることから、またはその皮が白いのでシロからきたとも言われています。元来シナは、“結ぶ”、“しばる”、“くくる”という意味のアイヌ語から来たものとされていますが、知里真志保博士によるとシナノキの内皮またはその纖維は nipes あるいは si-nipes と呼ばれ、「ニ」は「木」、「ペシ」は「もぎ取った裂片」を指します。そして「シ」は「本当の」という意味で、シナノキの内皮の纖維は強靭で物を縛ったり結ぶ素材として最も優れていることを示しています。

アイヌの人たちは内皮を細かく裂いて纖維をとり、布や縄を作りましたが、その他にも漁網や船舶用綱、タタミの糸、干し柿のつるし糸、酒・醤油のこし袋、馬の腹がけといった使い方もありました。北海道では開拓時代に入ってからも蚊帳(かや)を作ったりしていました。シナノキの内皮を細かく裂いて糸をつむぎ、これで織った布を椹(しな)布(ぬの)と言い、一般には「まだ布」、「まんだ布」と呼ばれていました。茶褐色の自然色をもった強い荒い感じの布で、農衣や山着に用いましたが、肌触りが悪く今では歴史資料館などで見かけるだけです。

シナノキは日本人の生活と深いかかわりがあり、材質はやわらかいが木理は織密なためベニヤ材として建築用の板、合板、家具彫刻、箸などの材料として広く用いられていました。辺材は淡黄白色、心材は淡黄褐色で柄にすると美しい波状紋ができます。現在でも工芸家たちはシナノキが「刃物に合い、刃物を痛めない」といい、北海道土産の「木彫りのクマ」はほとんどがシナノキで作られています。

木彫りのクマは八雲の徳川農場主の徳川義親氏がスイスから持ち帰った木彫りグマをまねて、冬季の農閑期に彫ったのが始まりであると言われています。一方、クマと密接な生活をしていたアイヌの人たちは、動物園的な八雲グマはに対し、毎日見慣れている野生のクマを、それぞれが思い思いにクマの個性と動きをとらえて彫ったのでした。それが一時期、北海道を代表する観光土産となりました。(T.K.)



7月の園芸

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00~12:00、13:00~16:00

☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日

☆百合が原公園 772-3511 木、日曜日

☆平岡樹芸センター 883-2891 水、土曜日

◆パンジーの種まき

早春の花壇を彩るトップバッターはパンジーですが、この花の栽培準備は真夏のこの時期に始まつていて、夏播き二年草の代表でもあります。厳しい暑さの中で育苗しますから発芽やその後の管理では細心の注意と技術が要求されます。

《播種の時期》

7月下旬~8月中旬が最適です(温室等の設備があれば2~3月も可能)。早いと育苗が難しく(高温に阻まれて...)、遅れると年内の株養成が不足。降雪前までに1~2花くらい見られる株に仕上げましょう。

《種まきの準備》

簡単に準備できる播種用具はイチゴパック、ピートバン、育苗パット、ペットボトル等、身近にあるアイテムを上手に利用しましょう。大きさや深さ、材質に合わせて排水性や温度管理がやりやすいように工夫します。

《用土》

ピートモスやバーミキュライトを主材にした用土を準備します。市販の用土を利用する場合、排水性、保水性を考慮して適宜材料の添加などで調整しましょう。排水性、保水性に富み、無菌、無肥料であることが播種用土の条件です。

《種まきの手順》

- ① 容器に用土を8分目ほど入れ(容器の上部1cmくらい空ける)十分水を含ませる。
- ② 時間を置いて用土の温度が常温になるまで待つ。
- ③ 古ハガキなどを使って種を均一に播く。
- ④ バーミキュライトをふるいで薄く種が隠れるくらいに覆土する。
- ⑤ 新聞紙で覆う(種から1cm浮かせる)

《育苗スケジュール》

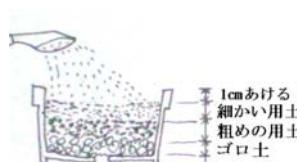
播種	発芽	本葉展開	仮植え	ポット上げ
14日	15~16日	7~10日	15~17日	
(0)	(14)	(30)	(37)	(55)

《種まき後の管理》

生育期間中は15~20°Cに保ちます。特に発芽までは涼しく管理しないと発芽しませんので、家の北側に置くか、寒冷紗などで覆うなど対策を考えましょう。三分の一くらいの発芽を確認したら直ちに新聞紙をはずして日光に当てます。遅れると徒長苗になり、開花期になってしまひ弱な株になってしまいます。

《鉢(ポット)あげ》

本葉が3~5枚になったら9~10.5cmのポリポットに植え、薄い液肥を与えて、降雪前までに1~2花見られるくらいの苗に仕立てます。早めに付いた花蕾は摘み取ったほうが株の養成に良いようです。ポットのまま雪の下で越冬させ、春に花壇へ定植します。



水やり後しばらく置く



ハガキなどで均一に播く



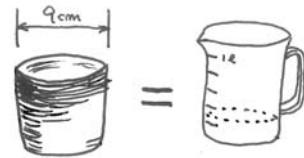
ふるいで覆土



新聞紙で覆う

◆ハクサイの苗作り

ハクサイは、普通 7 月下旬(20 日頃)に畑に種子を直接まきますが、家庭菜園では限りある面積の中で多くの作物を作っていますのでできるだけ遅くまで(前の作物を)収穫したいと思います。このような場合には、別な場所で苗を作ると畑を有効に使うことができますので、苗作りに挑戦してみましょう。種まきは直播きより 7~10 日早く播きます。



育苗用土の準備(1週間前)

ハクサイの栽培では、根こぶ病が大敵なので用土は無病の市販育苗用土を使用します。肥料混合の有無を確認し無肥料の時は用土 10L当たり化成肥料小さじ 1 杯を入れ、良く混合します。育苗には 9cm のポリポット等を使います。

必要量: 9cm ポリポットで約 300ml の用土が必要です。

種まき~

ポットには、種まきの 3~4 日前に用土を詰め、軽く振動を与え用土を落ち着かせておきます。前日には十分かん水し、土をなじませておきます。1 ポットに 4 粒程度の種子を入れ 1cm 位の覆土をし、細目のジョウロで軽くかん水します。発芽までは 18~22℃ で管理します。



ポリポット
種まき

発芽後の管理~

発芽後は 15~20℃ 程度で管理します(光は必要)。発芽後本葉の出始め頃に子葉が正ハート形をしたものを残して間引きし(2 本立て)、本葉 3 枚頃に 1 本立てにします。葉色の悪いときは薄い液肥を与えます。

定植~

有機物や石灰などは 2 週間前に、基肥は 1 週間位前に、1 m²当たり化成肥料を 100g 程度施しておきます。根こぶの病防除にネビジンなどを 1 m²当たり 20~30g 全面に散布し土と良く混和しておきます。

コナガなどの防除には、オルトラン粒剤を 1 株当たり 2g 混和して植えます。ポット苗で本葉 4~5 枚(播種後 35 日位)の苗を畦幅 70cm、株間 45cm で植えます(坪当たり 10 株前後)。ハクサイは石灰欠乏が発生しやすいので、適正な石灰と保水性を高めるために、堆肥などの有機物を十分入れましょう。



本葉 4~5 枚
定植適期苗

◆ Q & A ◆

Q 我が家の庭にレンゲツツジ、キレンゲツツジ、シャクナゲなどが数本あります。花が咲く年もありますが、ほとんど咲かない年もあります。咲かないときは、蕾が茶褐色に変色しています。花の咲かない原因と対策を教えてください。 (南区 Sさん)

A ツツジやシャクナゲの花が咲かない原因は色々ありますが、この場合は害虫の仕業と考えられます。ツツジやシャクナゲは通常 8~9 月に蕾ができます。蕾ができるある程度の大きさになった頃にベニモンアオリンガ(別名:ツボミムシ)の成虫が飛んできて蕾に卵を産み付けます。7~10 日ほどたつと孵化した幼虫は蕾の中に入りし中を食い荒らします。こうなった蕾は翌春には変色して、花を咲かせることができません。

これを防ぐには蕾のでき始め(開花の早いキバナシャクナゲなどで 7 月下旬頃)から殺虫剤(オルトラン、スミチオンの 1000 倍液)を 2~3 回散布します。蛾は夜行性であり薬剤は良く効きますので風のない夕方に散布すると効果的です。成虫も幼虫も 1cm 以下で、なかなか目で発生を確認することができません。薬散の適期を逃さないよう注意しましょう。



7月～8月上旬の催しのお知らせ

豊平公園緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
洋ランの夏の栽培	7/13 (日)	13:30～	6/11～	無料
秋野菜の種まきと管理	7/21 (月)	〃	7/11～	〃
ハイビスカスの管理	8/16 (土)	〃	〃	〃
展示会				
自然の素材に魅せられて 籐・あけび作品展	7/15 (火)～21 (月)		あけびつる工房 Rasen	
夏を楽しむ植物展	8/5 (火)～24 (日)			
夏休み子供クラフトフェスティバル	7/29、30	参加費用：100円（保険料込） 木の枝や実を使って楽しい工作をしましょう！		
自然観察会				
夏の観察会	7/5 (土)	10:00～	6/11～	無料
クラフト講習会				
現代押し花アート講習会 「ポストカード」	7/15 (火)	10:00～	7/11～	1,000円
あけび工房講習会 初級編 「鉢カバー」	7/16 (水)	〃	〃	2,500円
アレンジ押し花講習会 「花だより」	7/18 (金)	〃	〃	1,500円
ボタニカルアート講座 全10回	4/25～9/12 第2、4金曜日	随時受付中	(詳しくはお問い合わせください)	

百合が原緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

講習会 内容	日	時間	申込開始	費用・備考
ラベンダーなどハーブの育て方	7/9 (水)	13:30～	6/11～	200円
バラの花後の管理	7/13 (日)	〃	〃	〃
公園の生き物観察会	7/31 (水) 8/7 (木)	〃	7/11～	〃
ゆり月間	7/2 (水)～27 (日)			

平岡樹芸センター 清田区平岡4条3丁目 TEL 883-2891

講習会 内容	日	時間	申込開始	費用・備考
生垣の維持	7/6 (日)	10:00～	6/11～	無料
マツ類の整枝剪定	7/20 (日)	10:00～ 13:30～	7/11～	〃
展示会			料金	
アレンジ押し花講習会 「花だより」	7/17 (木)	10:00～	7/11～	1,500円

イベント 内容	日	会場	お問合せ、お申込み
川のエビ・カニと水遊びしよう	7/12 (土)	豊平川さけ科学館	豊平川さけ科学館 011-582-7555
さかなウォッティング	7/6 (日) 7/13 (日) 7/20 (日)	北の沢川 星置川 琴似発寒川	〃
平岡公園 夏の森のたんけんたい	7/12 (土)	平岡公園	平岡公園